

## 小学校入学前の1年間をアースエイトに通わせるという選択

この春、小学校に入学する卒園児のお母さん2人にインタビュー

### mother's voice

親業を学び、子どもとともに家族も成長した一年。

わが子に諭され、親のほうで育てられています。

小学校に入学する前の1年間をアースエイトに通わせる。そんな決断をした2組の親子を取材したのは、昨年6月のことでした。6カ月から年中まで通った幼稚園を転園してきた花山沙和ちゃんと、震災後の避難生活を経て、福島から家族で岡山に移住してきた国嶋晟生くん。あれから約9カ月が過ぎ、この春、卒園を迎えた2人の成長や変化について、お母さんたちに振り返ってもらいました。



生後10カ月のときに被災し、避難生活の中で我慢することの多かった晟生くんは、お世話好きなお姉ちゃん2人の下で、物静かな男の子でした。「園に通い始めてすぐに、自分の思っていることを言葉にするようになって、運動神経も良くなって、晟生がみるみる変わっていききました」と話す真弓さんは、息子の急激な変化に驚かされた



リレーでも、いつも本気で競い合っていた晟生くんと沙和ちゃん(2016年6月撮影)

います。

「晟生くんは、もともとスマートで優しいのだと思います。今まで空気を読んでしまっていたのが、自分の感情が出せるようになってきて、沙和にも感情をぶつけてくれるようになったみたい」と明子さん。同学年で同時期に入園した晟生くんと沙和ちゃんは、互いの思いをきちんと伝え、ときにはケンカをしながら仲良くなっていきました。

アースエイトとの出会いは、親業を通じて、子どもたちだけでなく、2つの家族にも大きな変化をもたらしたようです。

親業は、子どもの気持ちを受け止めて尊重しながら、自身の思いもきちんと言葉と表情で伝え、親子関係を円滑にするコミュニケーション法。アースエイトが大切にしている考え方で、保育スタッフも全員学んでいます。真弓さん、明子さんも親業に興味を持ち、親業訓練講座を受講しました。

「私が心に余裕をなくしていると、ママ、そういうときは歌でも聴いたらいいよと言ってくれます。以前は、お互いが一方的に感情をぶつけ合うだけだったケンカも、今は、お互いが伝えたいことを全部伝え合って、すっきり終われるようになりましたね」と真弓さん。「主人も、子どもに以前言っていたような『無理』や『できない』を言わなくなり、なぜ無理なのか、今できないのか、理由を説明するようになりました」。親業に触れる機会がなかったご主人が、家族とのコミュニケーションで温度差を感じるようになり、自ら努力して家族に歩み寄ったのだそうです。



国嶋 真弓さん

晟生くん(6歳)

花山 明子さん

沙和ちゃん(6歳)

花山家では、父親とのコミュニケーションにイライラを募らせていた沙和ちゃんの「パパ、もっと私のこと勉強して!」のひとことで、ご主人も親業訓練講座を受講。「感情をきちんと伝え合うようになって、親子関係がより親密になりました。私とケンカするときも、沙和は『お母さん、そんなに怒るところじゃないよ。怒らないで話を聞いて』と言います。親が子どもに諭されているようです」と笑う明子さん。「うちもそう!」と真弓さん。「わが子に諭され、親のほうで子どもに育てられています」と口をそろえます。

最後に明子さんは、「1年間娘を通わせて一番変わったのは私が娘を見る目かもしれません。娘の得手不得手を見て不安がたくさんあったのですが、アースエイトに通わせているうちに、たとえ叱っても全く折れず、拙い言葉で一生懸命自分の気持ちと感情を伝えてくる姿を見て、娘をたくましく思うようになりました。親業をベースに保育をしているアースエイトでの1年は、私たち親子にとって価値ある体験でした」と語ってくれました。